



風景=物件の土地、コンクリ施工後



風景=木造建築途中

11月のアイエス通信は、田中が担当します。

紅葉の美しい季節になりましたね。出掛けるには、平年より少し気温が高めなので、行楽地にも出かけやすくなって良いですね。

《マイホーム その1》

年齢的に少し遅いですが、4月に40代後半で新築購入しました。子供2人、家族が増え、広い間取りの賃貸物件を考えていましたが、家賃も高く、当時住宅ローン金利が低いのも有り、購入を決断しました。人生最後までの家なので、土地、近隣環境には神経質になりました。しかし、その前に住宅ローンの審査が通るかが、一番問題です。

だめもとで、不動産屋さん探しに動きまわりました。

規模の大きい不動産屋は40代後半では、融資額可能な条件が狭くて相手にされず、物件も探して貰えませんでした。

それでも、あきらめずに探していると、銀行との繋がりが深い小さい不動産屋さんを知り合い、お蔭様で、半年後に住宅ローンの審査に通ることが出来ました。もう少し若い内に家を買うことを、考えていれば、こんなに苦労しなかったと思いました。(笑)

《韓国金型メーカー視察》

お客様に同行して韓国に金型メーカーの視察に行ってきた。

二日間、ローカルの金型メーカー様数社に訪問見学させて頂きました。

大きい規模の企業は、管理・品質が出来ていて、設備も最新機械が多く有り、設計部署も有ります。ある金型メーカーでは、日系から受注した自動車部品の金型20面を、タイ国に送る段取りしているところでした。

受注の80%ほどが自動車部品物だそうです。以前は家電物が70%ほどだったのですが、低コストの中国企業に勝てずに、受注量が減って行き、このままではダメだとの事で、育成期間の長い自動車部品の受注に切り替え、設備と規模を大きく投資したそうです。韓国金型業界の歴史は長く、以前は技術面、コスト、納期などで中国企業より優位性は有りました。

しかし現在、受注している仕事は、当時始めた時より品質が上がり、成形仕様が増え、設計、製作期間が短く、資金繰りが厳しくなっているとされていました。その他にも、小さな金型メーカー様も案内してもらいました。あぜ道を車で移動、田舎の地域に工場が有り、敷地は狭いのに大きな型も製作していました。韓国の小さな金型メーカーでは、ほとんどの入子部品を、外注協力会社に加工してもらっています。

設計者が居ないので、製品管理、金型構想は設計会社に依頼されています。

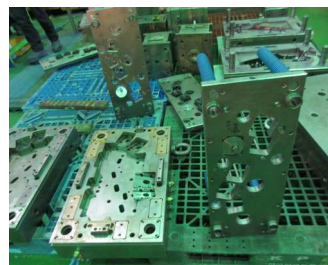
検討が必要な案件では、短納期のため判断をする時間がなく、部品加工が先に進んでしまい、問題が有る場合は何度も作り変えになります。

しかし、煮詰まった製品、設計であれば加工スピードは早いそうです。

韓国金型メーカーとは、まだまだ日本と温度差が有り、量産型にするには管理体制が必要だと思いました。



風景=38度線、イムジンガン



写真=型バラシ